

〈立川市市民会館 開館50周年記念公演〉

“七夕の日”にヴァイオリン傑作を!!

『音楽の都ウィーン』の伝統を担う若き天才が来日!

2022年秋、弱冠25歳で世界最高峰「ウィーン国立歌劇場管弦楽団」コンサートマスターに就任。もちろんウィーン・フィルでも演奏する世界的な有望株が初の全国ツアー。関東公演は何と立川だけ!



ヤマン・サーディ

ヴァイオリン・リサイタル 来日公演

2024年7月7日(日)14:00開演(13:30開場)

まもなくチケット発売

ムーサ友の会先行発売日 1/12(金)

一般発売日 1/14(日)

たましんRISURUホール(立川市市民会館)大ホール

全席指定 3,300円 ムーサ友の会会員 2,800円 ●学生 1,000円

※未就学児は入場できません。 ※来場時、学生証提示。

プログラム:ヴァイオリン・ソナタ第2番、第3番

クライスラー:美しきロスマリン、愛の喜び、愛の悲しみ

ドヴォルザーク(クライスラー編):母の教え給いし歌 ほか

※都合により、曲目等が変更となる場合がございます。

演奏動画
こちらから
チェック!



-イスラエル出身のパレスチナ人ヤマン・サーディ。“クライスラーのヴァイオリン”でクライスラーを弾く!

音楽一家でもない家系で育ち8歳の時、偶然テレビからきこえてきたヴァイオリンの音に心を奪われ、弾いてみたいと熱望していた。10代後半よりバレンボイムが創設したウェスト=イースタン・ディヴァン・オーケストラでコンサートマスターを務め今に至った若き名手。立川での機会をお見逃しなく!ピアノは(藤田真央がかつて優勝し脚光を浴びた)スイスのクララ・ハスキルコンクール2021で優勝した大注目の新星、中川優芽花。フリッツ・クライスラーが愛奏した1734年製ストラディバリウスで聴くクライスラー名曲の数々!

●たましんRISURUホール(窓口・電話)042-526-1311(9:00~20:00/第3月曜日休館)

●財団オンラインチケット <https://www.tachikawa-chiikibunka.or.jp>

●イープラス <https://eplus.jp/> ※友の会先行発売はありません。

チケット購入
(公演 HP)



※発売初日は電話予約のみ10:00~(翌日来館可 9:00~20:00)。 ※各初日はお1人様5枚まで購入いただけます。

※本公演は、車椅子使用者と視覚障がい者のためのお席がございます。たましんRISURUホールまでお問合せください。

【託児サービス】(株)明日香 0120-165-115(平日9:00~17:00)

※0歳~12歳までの受付(1人/¥2,000)、定員あり。公演の7日前までにお申込みください。

主催:公益財団法人立川市地域文化振興財団 後援:立川市教育委員会

ヤメン・サーディ (ヴァイオリン) Yamen Saadi, violin

25歳にして2022/23シーズンよりウィーン国立歌劇場管弦楽団に就任。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団でもコンサートマスターとして演奏している。ソリストとして、室内楽奏者として多忙なキャリアを送っており、ベルリンのモルゲンポスト紙には「魅惑的な音色」と評された。2022年5月にはレオニダス・カヴァコスの代役としてイスラエル・フィルにソリストとしてデビューした。落ち着いたリリシズム、そしてその若さからは想像できない技術と優雅さをあわせ持つ。

ソリストとしてこれまでにシュターツカペレ・ベルリン、イスラエル・フィル、ヨーロッパ室内管、ポーランド国立放送響、バレンシア管弦楽団、クレメラータ・バルティカ、ハーバード管、ガリラヤ室内管、エルサレム響などと共演し、ダニエル・バレンボイム、ローレンス・フォスター、レオニダス・カヴァコス、ヤロン・トラウブ、クリストフ・ポッペンなどの指揮者と共演している。

カーネギーホール、ラインガウ音楽祭、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、エルサレム音楽祭、シュロス・エルマウなどヨーロッパ、アジア、アメリカの様々な音楽祭やコンサートホールで演奏をしてきた。

2022年1月にはプーランク、イザイ、フォーレの作品をピアニストのナタリア・ミルシテインと収録した初のリサイタルアルバム『Voices From Paris』をリリース。この録音は、「名人芸、叙情性、抑制された表現力が完璧にブレンドされている」、「素晴らしいしなやかさ、柔軟性、細かく幅広いダイナミックレンジ」などと絶賛された。

ナザレに生まれ、同地のバレンボイム＝サイド音楽院でヴァイオリンを学び始める。その後、イスラエル・フィルのコンサートマスター、チャイム・タウブの指導を受け、11歳でウェスト＝イースタン・ディヴァン管に入団し、17歳で同オーケストラのコンサートマスターに就任。バレンボイム＝サイド・アカデミーで学士号を取得するとクロンベルク・アカデミーでミハエラ・マーティンに師事し、修士号を取得した。

2020年にはアピブ・コンクールおよびポール・ベン・ハイム・コンクールの両方で優勝。アメリカ＝イスラエル文化財団およびプリンス・フォン・ヘッセン賞より奨学金を授与されている。

室内楽奏者としても活躍しており、設立に関わったピアノ五重奏団キャンティ・アンサンブルでヨーロッパ全土をツアーしている。2022年このアンサンブルは権威あるKersjes賞を受賞した。

1734年製のストラディヴァリウス「Ex Lord Amherst of Hackney, Ex Fritz Kreisler」を使用している。

中川優芽花 (ピアノ) Yumeka Nakagawa, piano

ドイツに生まれ育った日本人ピアニスト。2021年、スイスで開催された権威あるクララ・ハスキル国際ピアノ・コンクールで優勝、および聴衆賞ほか併せて受賞した。またデュッセルドルフで開催されたロベルト・シューマン国際コンクール(2019)、およびイエネ＝タカーチ国際コンクール(2018)でも優勝しており、2014年にはワイマールで開催された「若いピアニストのためのフランツ・リスト国際コンクール」では第2位を受賞。

2014年にドイツの青少年音楽家コンクールで満点および第1位となったことでカール・ベヒシュタイン財団からの奨学金を獲得。ドイツ各地のホールからオファーを受け演奏するようになる。2019年以降ロンドンのウィグモア・ホール、デュッセルドルフのトーンハレ(ゾイ・ツォカヌー指揮デュッセルドルフ交響楽団と共演)、ワイマールハレ(マルクス・L・フランク指揮のイエナ・フィルハーモニー管弦楽団と共演)などで演奏している。最近では、サンクトペテルブルクで開催された第16回マリインスキー国際ピアノ・フェスティバルに招待された。現在ドイツ奨学金を得ている。

2022-23シーズンはクリスティアン・ツァハリアスが指揮するホーフ交響楽団とベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番を、また同じくクリスティアン・ツァハリアスが指揮するポルト・カーザ・ダ・ムジカ管弦楽団とモーツァルトの2台のピアノのための協奏曲KV365を演奏。また、クララ・ハスキル国際コンクールの開催地ヴヴェイでヴヴェイ・クラシック・フェスティバルに出演しリサイタルを行う。

2001年デュッセルドルフで生まれ、デュッセルドルフのロベルト・シューマン音楽大学にてバーバラ・シュツェパンスカのもと音楽の教育を受け始め、ロンドンのパーセル音楽院ではウィリアム・フォンに学ぶ。2021年からワイマールのフランツ・リスト音楽大学においてグリゴリー・グルズマン教授のもと研鑽を積んでいる。

2022年3月の来日リサイタルは大絶賛を浴び、以後国内外のオケと共演を重ねている。